

## 今号のトピックス 高校情報科 56歳の初任教諭から見た現在の高校生

今年3月33年間務めた会社を辞め、4月から56歳で高校の初任教諭として活躍・奮闘されている当会開発委員の原口剛氏に日々の学校の生活や情報科教員としての感想と高校生の様子について寄稿いただきました。コロナ禍の子どもへの影響の深刻さと教師向けの情報提供の重要性を再確認させられる内容です。(編集部)

### 《今までの活動が

#### 新しい未来を切り開いたか？》

昨年の東京都の採用試験で56歳でのまさかの採用となり、半年間バタバタとあっという間に3月を迎え、4月に都内の高校に着任しました。このTHInetで培ったネット依存の知識や埼玉県ネットアドバイザーとして10年間情報モラルの啓発活動に携わっていたのが評価され、採用されたと考えております。

#### 《3年間のコロナ禍の生徒への影響》

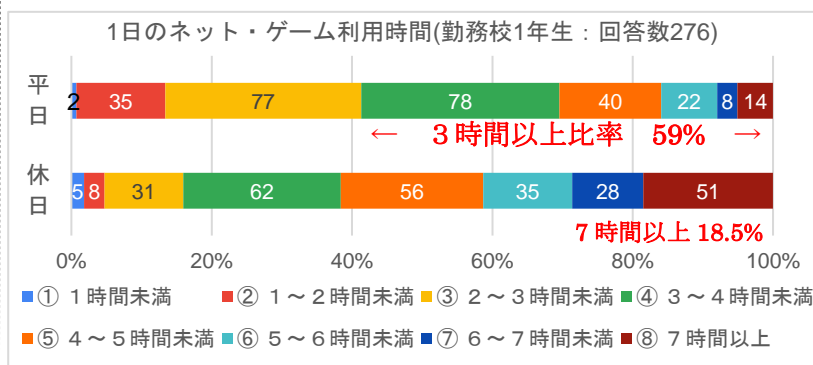
右往左往しながら1学期を過ごしました。幸いにも真面目で静かな生徒が多いため助かっている面がありますが、中学時代コロナ禍で友人との交流や社会体験の無さが消極的な性格を作ってしまったようにも思っています。特にコロナ禍3年間で、ネット時間は確実に増えていたようで、自分がネット依存に陥っている意識がある生徒も見受けられます。情報の授業の中で、ネット時間の調査、ネット長時間化に伴う健康状態もアンケート(右記参照)を取りましたが、平日4～5時間、休日7時間以上の使用者が多い状況です。また黒板の字が見えても教科書が見えない生徒も各クラス1～2名存在し、THInetで長年話題に上がっていることが現実起こっている状況です。ネット依存やネットの長時間化が及ぼす健康への影響も授業で扱いましたが、ゲーム時間をコントロールできない状態の生徒が多く、「すでに、ゲームにどっぷり浸かり、もう手遅れです」とアンケートに書いている生徒がいました。



### 《これからのネット依存予防教育とは》

ゲーム依存やSNS依存を予防するには小中学校での予防教育が有効であるとの認識であります。コロナの影響もあり、ネットやゲーム以外の興味が持てない、あるいは部活動等に積極的に活動できない生徒も多く、志や目標を立て、社会体験や交流を通じて自己の将来やウェルビーイングを高めていく方法や、認知行動療法のような手法を使って生活そのものを改善していくような方法など、別の方法で、ネット依存と対峙することも大事であると考えています。生徒指導提要にもネットリスク関連の項目が多くなっていることから、ネット依存予防については、生活指導の側面が増大してくるよう思えます。その側面から見てもTHInetによる教師向けの情報提供の重要性が増してくると思っています。

### 《アンケート結果と考察》



ネット利用時間について、平日と休日で答えてもらったところ、3時間以上の比率が平日約6割、休日8割にもものぼり、休日7時間以上の生徒も2割弱となっている。健康等に関するアンケートも実施し、「教科書の字が良く見えない33人(12%)」「ものが2つに見える」33人(12%)という目の症状や、「朝、時間通りに起きられない」126人(46%)等の生活習慣問題、「何もやる気がしない」128人(46%)などがある。ネット依存傾向がやる気や成績にも影響することが理解できていないようで、利用時間増加で「学校の成績が下がった。」と答えたのは67人(24%)しかいなかった。